

平成 20 年 4 月 22 日

各 位

国際石油開発帝石ホールディングス株式会社

代表取締役社長 黒田 直樹

(コード番号：1605)

問合せ先：広報・IR エグゼクティブ・マネージャー 宮本 修平

(電話：03-5448-0205)

アゼルバイジャン共和国 カスピ海ACG鉦区グナシリ油田深海部の生産開始について
～アゼルバイジャンACG油田 日産 100 万バレル以上へ～

国際石油開発帝石ホールディングス株式会社は、子会社インペックス南西カスピ海石油株式会社を通じて、アゼルバイジャン共和国領カスピ海海域 ACG 鉦区において開発・生産作業を実施しておりますが、4 月 20 日より、同鉦区内グナシリ油田深海部からの原油生産を開始いたしましたので、お知らせいたします。

グナシリ油田深海部からの生産は、今後順次拡大し、ピーク時の日産量は、32 万バレルを予定しております。生産された原油は、同鉦区内で既に生産中のチラグ油田およびアゼリ油田からの原油とともに、アゼルバイジャン・バクー近郊のサンガチャルターミナルを起点とし、グルジア・トビリシを経由し、トルコ・ジェイハン（地中海沿岸）に至る BTC（Baku-Tbilisi-Ceyhan）パイプライン等により輸出される予定です。

グナシリ油田深海部は、ACG 鉦区 3 油田の総合開発計画の中で、チラグ油田（早期生産プロジェクト）及びアゼリ油田中央部（フェーズ 1）、アゼリ油田西部及び東部（フェーズ 2）に続くフェーズ 3 として位置づけられており、今回の生産開始を以って、ACG 鉦区では当初計画された全てのフェーズで生産段階に移行いたしました。これにより ACG 鉦区全体からの原油生産は、2009 年には、予定通り、日量 100 万バレルを超える予定です。

グナシリ油田深海部の生産開始は、当社グループの生産量の拡大に大きく貢献するものとなります。

当社は、オペレーターの BP 社 34.1%、Chevron 社 10.3%に次ぐ、10%の参加権益比率で本事業に参加いたしております。なお、他の日本企業としては、伊藤忠商事(株)も本事業に参加しております。

補足説明

① ACG鉦区（生産分与契約）の概要

ACG鉦区は、アゼルバイジャン共和国領カスピ海海域に位置し、面積は、432.4km²、グナシリ油田深海部は、同国首都のバクー市の東約 100kmに位置し、水深約 175mにあります。ACG鉦区は、アゼリ油田、チラグ油田、グナシリ油田の 3 油田により構成されており、可採埋蔵量は 54 億バレルとなっております。本鉦区の実産分与契約は、1994 年に締結されております。

② 参加の経緯及びパートナーの概要

当社子会社のインペックス南西カスピ海石油㈱は、2002 年 12 月、本鉦区の実産分与権益 10%を取得しました。本鉦区の実産分与権益保有者は、同社のほか、オペレーターである BP 社（34.1%）、Chevron 社（10.3%）、アゼルバイジャン国営石油会社 SOCAR（10%）、StatoilHydro 社（8.6%）、ExxonMobil 社（8%）、TPAO 社（6.8%）、Devon 社（5.6%）、伊藤忠商事㈱（3.9%）及び Hess 社（2.7%）となっております。

③ BTC パイプライン

アゼルバイジャン共和国バクーからグルジア・トビリシを経由し、地中海に面するトルコ共和国ジェイハンに至る総延長 1,768km の新規原油パイプラインで、通油能力は、日量 100 万バレルとなっております。2006 年 6 月には、ジェイハンから原油の初出荷が行われております。当社は、アゼルバイジャン ACG 鉦区生産原油及びカザフスタン北カスピ海鉦区事業での生産原油の搬出路確保を目的として、子会社 INPEX BTC PIPELINE, LTD.を通じて、本パイプラインの建設・操業の事業主体である BTC Co. に 2.5%の出資シェアで参加しております。

以上

